

教科 : 国語科

**Research ⇒ 現状分析・課題把握**

- 1年生** ・ ・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒  
授業アンケートによると、「授業で考えたり、考えたことを発表したりまとめたりしている」という項目では33人の生徒が「当てはまる」という結果であり、全体の約6割を占めている。この結果から、思考して判断し、表現することを苦手としている生徒が全体の約4割いることが課題である。定期考査や小テストには前向きであり、1学期期末考査では平均点は7割を上回った。
- 2年生** ・ ・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒  
授業アンケートによると、「授業で考えたり、考えたことを発表したりまとめたりしている」という項目では、5名が「当てはまらない」と回答している。しかし、実際に授業を行ってみると、もっと多くの生徒が発表など、自分を表現することを苦手としていると感じることが多くあった。自分の考えをまとめて、発表などの方法で表現することにまだまだ課題があると思われる。定期考査では、記述問題において、問題で聞かれていることを読み解き、適切な答えを導くための読解力がやや不足気味であると感じる。
- 3年生** ・ ・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒  
授業アンケートによると多くの生徒が授業中に意欲をもって取り組んでいる。その成果として、文学的文章と説明的文章の読解ができるようになってきている。それに伴い、記述問題の正答率が上がってきているが、答えるために必要なキーワードをすべて探したり、文章の不要な部分を削ったりすることはまだ不十分である。また、漢字の書き取りと文法事項を全般的に苦手としている。特に、品詞の識別や活用のある自立語の応用問題の正答率は低めである。

**Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)**

《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

- 1年生** ・ ・課題に取り組ませる際にスモールステップを活用し、どのように思考すればその課題を達成することができるのか基礎的な知識・技能を習得させる。読解に関しては、筆者の考えや登場人物の心情などを考える時に、本文における、気を付けなければならない表現を資料集を活用し学ばせる。
- 2年生** ・ ・読解力を付けるために、筆者の考えや登場人物の心情などを考える時に、本文中で気を付けなければならない表現を資料集を活用し学ばせる。文章構成のパターンを学習し、文章で重要となる箇所を発見する力を身に付けさせる。
- 3年生** ・ ・文法事項については授業内で繰り返し復習し、基礎をしっかりと定着させることで、応用問題を解く力に繋げる。漢字についても同様で、小テストなどを繰り返し行うこと、まとめテストを実施することなどで、漢字知識の定着を図る。

《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

- 1年生** ・ ・マッピングなどの思考ツールを活用し、自分の意見を深めさせ思考力を身に付けさせる。班活動や個人で発表する機会を設け、自分の考えたことを分かりやすく相手に伝えるためには何が必要かを思考させ、表現力を養わせる。
- 2年生** ・ ・調べ学習をして作品を作ったり、テーマを決めて意見文を書いて発表したりする機会を増やすことで、思考力・判断力・表現力を養わせる。また、意見文の書き方や発表時の流れなどを繰り返し復習して、表現することに対する苦手意識を減らしていく。
- 3年生** ・ ・教科書を読みこんだ上で、本文中で繰り返し使われているキーワードや似た表現に注目させ、そこから筆者の主張・本文のまとめを探し出すことで、思考力・判断力を養わせる。また、テーマを設定し、小論文を書く練習をすることで自己の表現力を高めていく。

《Ⅲ『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

- 1年生** ・ ・学ぶ意欲を高めるために、ICT機器を活用し、生徒一人一人の意見を一齐に閲覧できる授業を展開して意見交換を行う。学習習慣の定着では、話し合い活動や発表する機会を増やし、常に思考させながら学習させる。
- 2年生** ・ ・ICT機器を活用し、生徒一人一人が作成した作品を一齐に閲覧できる授業を展開して、生徒の学ぶ意欲を向上させる。意見交換であっても、コラボノートを活用し、積極的にでない生徒も話し合いに参加できるような環境を整えていく。
- 3年生** ・ ・定期考査毎に振り返りを行わせ、自分がどういったミスをしてしまったのか、どういう問題ができていたのかを確認させる。自分自身の課題を把握し、次に繋げることで学習意欲を高めさせる。